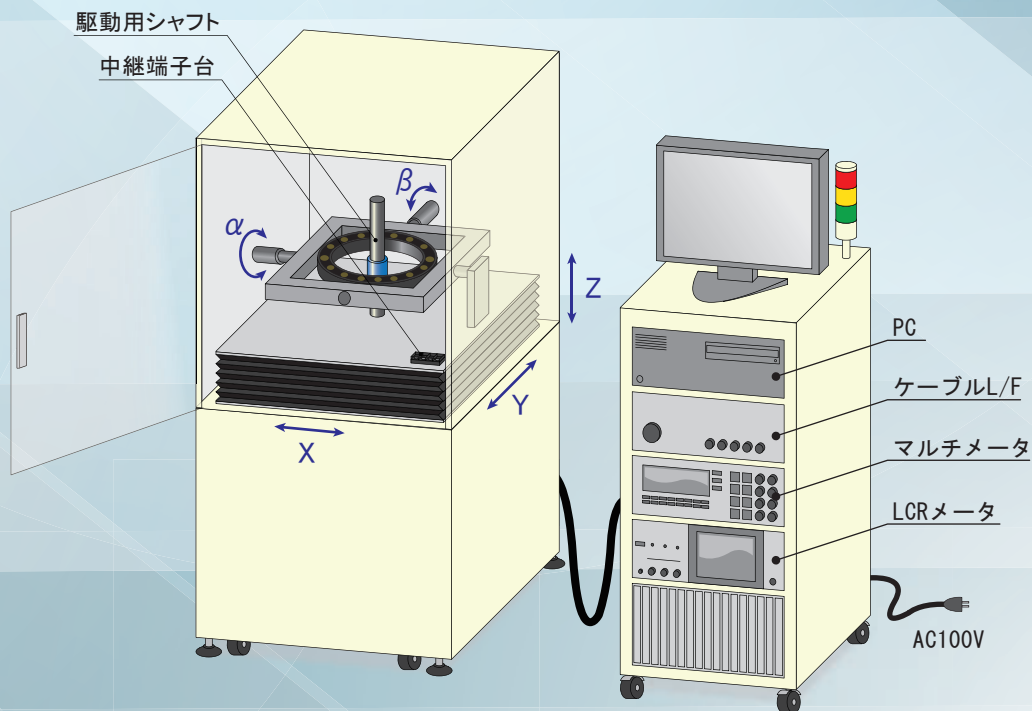


ステータ偏芯 及び ロータ偏芯させた状態での出力角度誤差を
0.01°の高分解能で測定が可能

レゾルバ特性評価装置 RI-1000

EV化が急激に進む市場の中で、効率UPのためにレゾルバの角度誤差が及ぼす影響が重要になっています。本装置は、レゾルバを取り付けたときの偏芯ズレによって生じる角度誤差を0.01°の分解能で測定することができます。これにより、レゾルバの基本性能や、モータへの取付規格を評価することが可能になります。



本装置は、レゾルバの特性を評価する装置で、インピーダンス等の電気特性を偏芯させた状態で測定することができます。

偏芯は、ステータおよびロータに対して水平方向への偏芯、軸芯傾き、スラスト方向オフセットに対応しています。

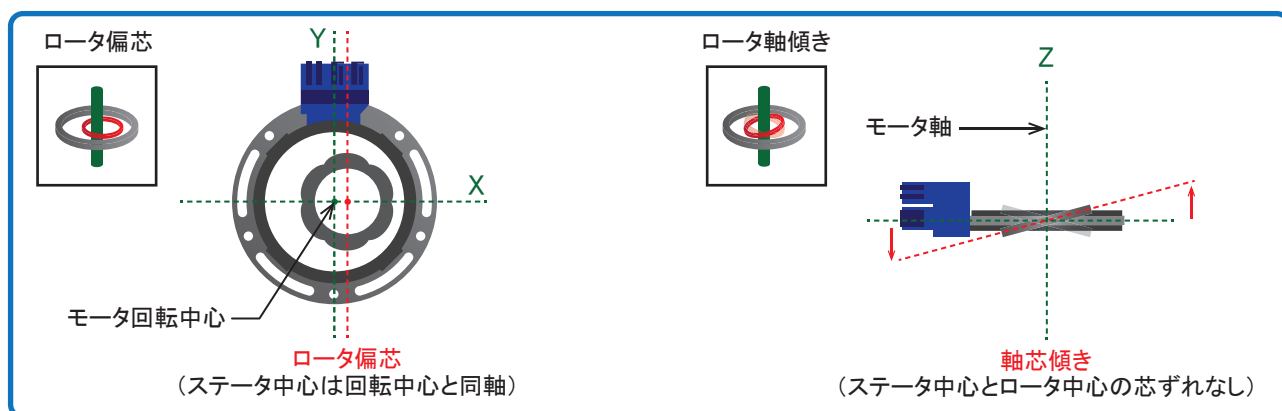
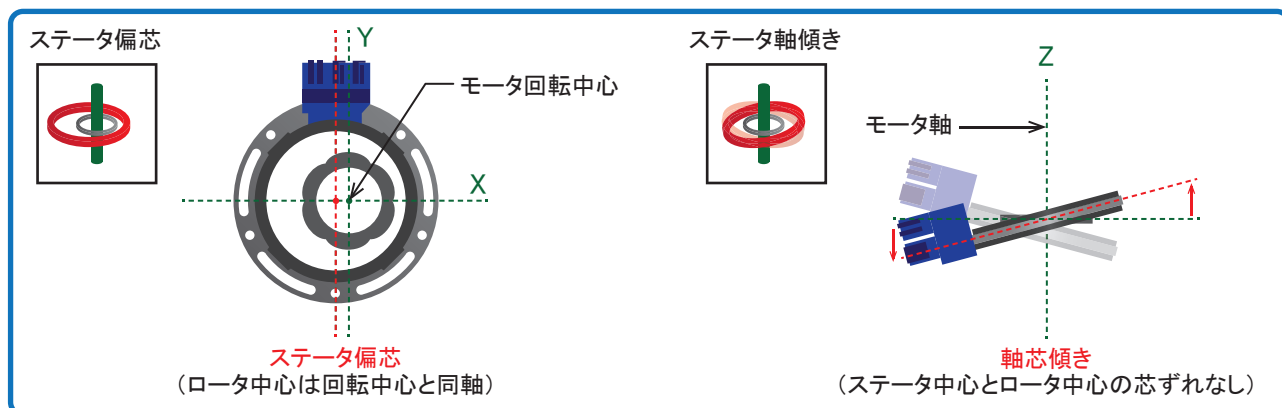
また、偏芯させた状態でレゾルバの角度誤差を測定することが可能です。

- ステータ取付ステージとロータ取付シャフトを補間制御させることで、ロータ偏芯、ロータ軸傾きの角度誤差を測定可能です。
- 電気特性試験と偏芯特性試験を同時に行うことが可能です。
- 最高12,000rpmでの角度誤差測定が可能です。

■ 基本仕様

項目	内容
対象ワーク	ステータ外径 $\phi 30 \sim \phi 320$ / 厚さ 50mmまで ワーク内径 $\phi 10 \sim \phi 185$ / 厚さ 10mmまで 軸倍角 1~12
励磁信号	周波数 5KHz~20KHz 定電圧/定電流 切換式 定電圧 $1V_{P-P} \sim 20V_{P-P}$ 定電流 $\sim 200mA_{P-P}$
電気特性試験	試験回転数 10rpm~20rpm 回転方向 時計回り/反時計回り 測定項目 1次/2次インピーダンス, 1次/2次インダクタンス 1次/2次レジスタンス, 1次/2次リアクタンス 初期電気角誤差 1次電圧, 1次電流 変圧比, 電流比, レゾルバ位相差 ※基準角度精度 $20 \text{ arcsecond}_{P-P}$ 角度誤差 (0.1° ピッチ)
偏芯特性試験	ステータ偏芯 $\pm 1.5\text{mm}$, 精度 $\pm 15\mu\text{m}$ 以下 ロータ偏芯 $\pm 1.5\text{mm}$, 精度 $\pm 15\mu\text{m}$ 以下 ステータ軸傾き $\pm 2^\circ$, 精度 $\pm 0.02^\circ$ 以下 ロータ軸傾き $\pm 2^\circ$, 精度 $\pm 0.02^\circ$ 以下 スラストオフセット $\pm 4\text{mm}$, 精度 $\pm 15\mu\text{m}$ 以下 基準角度 0.1° 角度誤差分解能 0.01°
高速回転試験	回転数 MAX12,000rpm モード 一定回転/スイープ/マニュアル
プログラム運転	偏芯特性および高速回転の各試験においては、最大500ステップのプログラム運転が可能

■ 偏芯説明



< 開発・製造 >

NST 株式会社 エヌ エス ティー

<http://www.nst-co.com>

〒433-8103 静岡県浜松市中央区豊岡町58番地 TEL.053-430-6311 FAX.053-430-6312

本カタログの記載内容：2024年1月現在 製品改良の為、お断りなく仕様変更することがありますので御了承下さい。